

&lt;認知症対応型共同生活介護用&gt;

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4690300092
法人名	医療法人 恒心会
事業所名	グループホーム イーストサイドおぐら
訪問調査日	平成21年4月30日
評価確定日	平成21年5月30日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4690300092
法人名	医療法人 恒心会
事業所名	グループホーム イーストサイドおぐら
所在地	鹿屋市笠之原町7329-5 (電話) 0994-41-7420
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成21年4月30日

## 【情報提供票より】(平成21年4月11日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成19年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	8人, 非常勤 10人, 常勤換算 17.2人

## (2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,900 円	その他の経費(月額)	12,600 円	
敷金	有( ) 円 無( )			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

## (4) 利用者の概要(4月11日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	9名	要介護4	3名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	56歳	最高	100歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	小倉記念病院 おぐらリハビリテーション病院 さかもと歯科クリニック
---------	-----------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

協力医療機関である同一法人の病院と隣接した敷地に、小規模多機能ホームと並んで建てられたグループホームである。行事や避難訓練を小規模多機能ホームと合同で実施したり、日常的に交流を図るなど、お互いに立地を活かした運営が行われている。中庭の芝生でお茶を飲んだり、マスコットの犬と戯れるなど、入居者は毎日を楽しく穏やかに過ごしている。法人全体としての教育体制が充実しており、管理者を先頭にさらなる質の向上に向けて熱心に取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が、初めての外部評価である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員が項目を分担して評価した後、主任がまとめを行っている。評価を通して気づいたことが早速改善に移されるなど、活用されている点も見られるが、評価の意義については、全員が共通理解を持つまでには至っていない。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回、定期的開催しており、ホームの状況や活動報告がなされている。様々な分野からの参加者より意見や感想、提案などをいただいで運営に反映している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	入居時の説明に加えて、苦情・要望についての掲示物およびご意見箱の設置を行っている。実際にご意見等をいただいた場合は、運営に反映するように努めており、設備面で可能なものは対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	入居者の知人が来訪するなどの交流はあるが、地域の行事への参加は今のところ行われていない。町内会より、有線放送を使って緊急時の連絡ができる旨の申し出を受けている。

## 2. 評価結果詳細

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設準備委員会で検討して、地域密着型サービスとしての理念および運営方針を策定している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や更衣室に理念を掲示すると共に、職員のネームケースにも入れて意識付けを行い、朝礼等で唱和することで共有に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者の知人が来訪するなどの交流はあるが、地域の行事への参加は今のところ行われていない。町内会より、有線放送を使って緊急時の連絡ができる旨の申し出を受けている。	○	検討中の自治会加入などにより、地域行事への参加や住民との交流がさらに深まることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員が項目を分担して評価した後、主任がまとめを行っている。今回の評価を通して気づいたことが、早速改善に移されるなど活用されている点も見られるが、評価の意義については、全職員が共通理解を持つまでには至っていない。	○	評価の意義を十分理解するためにも、今回の自己評価および外部評価で浮かび上がった課題について、全職員で話し合い、具体的な改善に向けた取り組みを実行していただきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回、定期的に行っており、ホームの状況や活動報告がなされている。様々な分野からの参加者より意見や感想、提案などをいただいて運営に反映している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者とは、入退居の報告や制度上の質問、相談を行い、運営推進会議以外にもホームの現状を見てもらって助言を受けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の暮らしぶりや健康状態および金銭管理状況については、ご家族の面会時に報告しており、急な体調変化などは電話でお知らせしている。職員の異動については、運営推進会議の場で報告している。	○	ご家族によっては、面会の機会が少ない方もあると思われるので、ホーム便りや個別のお便りなどの方法を使って、定期的な報告を行うことを検討していただきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時の説明に加えて、苦情・要望についての掲示物およびご意見箱の設置を行っている。実際にご意見等をいただいた場合は、運営に反映するように努めており、設備面で可能なものは対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	勤務体制で可能な限り配慮することで、離職を最小限に抑える努力をしている。実際に異動や離職がある場合は、利用者と職員が徐々に馴染めるように、引き継ぎ期間を十分に設けるように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階的研修の充実を図るという教育方針のもと、目標管理シートを使い、年2回の個人面談において職員の段階に応じた育成に努めている。毎月実施しているホームでの勉強会に加え、法人で開催される研修会も計画的に実施されているまた、地域で行われる研修会等にも積極的に参加して専門性を高めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県および地区グループホーム連絡協議会に加入しており、研修会参加や交流、情報交換等を通じて、ともにサービスの質向上に努めている。地域向けのセミナー開催にあたっては、同業者と協力して運営に参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学に来てもらい、一緒にお茶を飲んで過ごしていただいている。入院中などの理由で本人が来られない場合は、状況確認も兼ねて、こちらから出向きお会いして説明している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	長い人生経験からのお話、職員へのいたわり、ねぎらいや励ましの言葉をいただくことがある。入居者から感謝されることを当たり前と思わず、お互いに支え合う関係であることを意識しながら支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望は、日頃の会話やご家族からの情報によって把握している。可能なことから実施し、時間のかかることでも職員間で話し合い、計画を立てて実現できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人やご家族の思いや意見を聞き、関係者間で話し合い、それらを反映した介護計画を作成している。職員は、「ライフチャート」に転記された介護計画を常に意識しながらサービスを提供している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しのほか、3ヶ月毎の担当者による評価を行っており、見直しの結果や本人の状態変化に応じて、現状に即した新しい介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同一法人の協力医療機関や訪問看護による医療面のバックアップ体制に加え、併設の小規模多機能ホームと合同で行事やレクリエーションを行うなど、柔軟で幅のあるサービスを提供している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の希望するかかりつけ医を利用していたが、基本的に市内の医療機関受診については職員が同行している。診察時は、日頃の状態について情報提供を行い、結果についてはご家族に報告するなど、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人およびご家族に対して、入居時に方針を説明し同意をいただいている。実際に重度化したり終末期に対応が必要な方はおられないが、状況に応じて医師や看護師等の必要な関係者と協議する体制は整っている。		看取り介護についての研修が予定されているので、メンタル面も含めた職員のさらなる資質向上に期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者に対する言葉遣いについては十分に配慮しているが、方言混じりの会話の中で、時折適切でない言葉も聞かれるので、職員間で注意し合っている。殆どの書類は事務所で保管しているが、日常的に使用する記録類が目につきやすい場所に置かれている。	○	便宜性を考慮する必要があるが、個人の記録類が、一日を通して目につきやすい場所に置かれていることは好ましくないため、時間的に区切りをつけて保管棚に収納するなど、適切な保管に努めていただきたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとり一人が自分の過ごしたいようにする時間と、皆さんと一緒に過ごす時間を分けている。いずれの場合も、本人気持ちを確認して、無理強いせずにペースに合わせて支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	委託業者による調理が主体であるが、入居者の希望を取り入れたり、季節の野菜をいただいた時など、一品料理を作って楽しんでいる。本人の状態によっては、トロミなどの形態で対応している。後片付けを一緒に行うこともある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3回、順番に不平等がないようにローテーションを組んでいる。拒否傾向の方に対しては、時間をおいて、タイミングを見計らいながら気持ちよく入浴を楽しんでいただけるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみやおしぼり巻きなど、可能な範囲で役割を持っていただいている。また、グランドゴルフやパッチワークなど、得意なことや楽しみ事の支援も行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	広い敷地に恵まれており、テラスや中庭で日向ぼっこを楽しんだり、隣の小規模多機能ホームに遊びに行くなど、日常的に戸外に出かけられるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠しておらず、一人で外出されそうな方があれば、さりげなく同行して見守るなど、鍵をかけないケアの実践に努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力指導のもと、避難訓練を実施している。ホームとしての自主訓練も行い、防災意識の浸透に努めている。		自主訓練回数を増やし、夜間想定訓練の実施や地元の消防分団の参加を得ることなどが検討課題に挙がっているので、実現へ向けて取り組むことが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した献立に基づき、栄養バランスに配慮した食事が提供されている。食事摂取量および水分摂取量については、十分に確保できるように支援し記録に残している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニットそれぞれに特徴があるが、一日の中で過ごす時間が長いリビングは、貼り絵などで季節感を演出し、BGMには懐かしい歌を流すなど、工夫が見られる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時および入居後も、居室には使い慣れたものや好みものを持ち込んでいただいている。車椅子を利用される方のために、洋服かけの位置を低くしてご自分でかけられるようにするなど、居心地良く過ごしていただくための配慮をしている。		